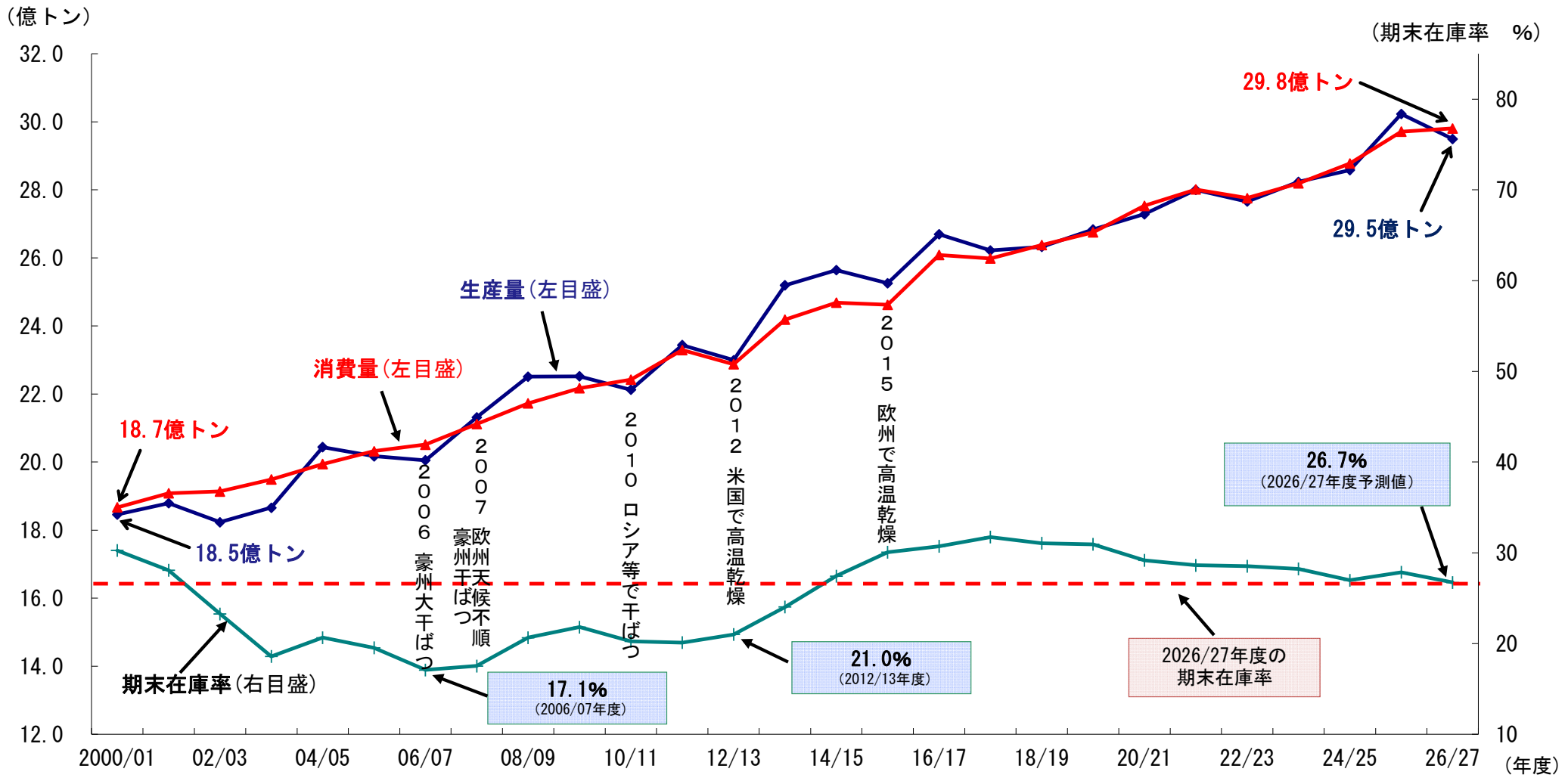
穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

○ 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
○ 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 2026)、「PS&D」
（注）なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。